

## 奄美大島で熱戦

### 第14回離島甲子園（全国離島交流中学生野球大会）



第14回離島甲子園（国土交通大臣杯全国離島交流中学生野球大会）が、8月21日から奄美大島で開かれ、全国の離島から25チームが参加しました。

中種子中学校は初戦を石垣島ばいーぐるズ（沖縄県石垣島）と対戦。健闘の末敗れはしたものの、選手は練習の成果を随所に見せました。

試合後、選手は全国のチームと、交流戦や野球教室を通して交流を深め、夏の思い出を作りました。

また、8月30日には、監督と選手が町長室を訪問し、離島甲子園の結果報告と支援に対する感謝の言葉が述べられました。



## 地域おこし協力隊通信（No. 80）

### 種子島の夏、初体験

「今日も暑いねー」皆さんは、今年何度この言葉を交わしたでしょうか。私はこの夏数え切れなくらいこの言葉を使ってしまいました。それもそのはず、気象庁の発表によると今年の夏（6～8月）の日本の平均気温は1898年の統計開始から125年の間で最も高温となったそうです。また、日本だけでなく世界的にも高温状態であり、今年の7月には世界の平均気温が観測史上初めて17℃を超えたというニュースが話題になりました。

とても暑かった今夏、振り返ってみるとたくさん思い出がありますが、特に印象に残っていることは、やはり海に関する離島らしいものが多かったように感じます。種子島の海では海水浴やサーフィンなど多様なアクティビティができたり、ウミガメが産卵に訪れたり、綺麗な朝日と夕陽を見ることができたりと多様な楽しみ方があります。もちろん、ある程度は事前知識として理解していたものの、自分自身が体験することで、



熊野沖に向かういかだ船（南界小学校いかだ大会）



熊野海水浴場で制作されたサンドアート

自分の言葉で他の人に伝えることができるようになりました。このような経験を通して、島の魅力について地域の子どもたちと話していると、子どもたちにとってそれらにはあって当たり前のものであり、特に意識されるものではないように感じることも多くなりました。比較対象が少ない子どもたちにとってはどうしても仕方ない部分だと思えますが、島の外から来た人間として、目の前にある魅力を再認識してもらえようなきっかけを作っていけたら…

そんなことを考えた種子島での初めての夏でした。

大山 広太郎